

知的障害のある人の

高齢化を考える

4つのポイント



「**親**なき後」を みんなで**支**える

全国手をつなぐ育成会連合会 編



知的障害のある人を地域で支える福祉制度やサービスは、充実してきています。「障害者は施設で保護されて暮らすべき」というような考え方も少しずつ薄れてきました。それでも私たち親・家族は、「親なき後」の子どもの生活が心配です。「子どもが困らないだけの生活費を」「親代わりに本人の生活を支えてくれる人は?」「生涯を全うできる暮らしの場はどこに」…。こうした自問を何度となくくり返してきました。

そうした心配をもつ方にこそ手にとってほしいと考え、私たちは本書を送り出しました。高齢期を迎える知的障害のある人を支える上で必要な視点を、私たちは「相談」「医療」「住まい」「お金」の四つに整理しています。特に「相談」は生活全般を、「医療」は生命と健康の基礎を支える欠かせないものと考え、その上に「住まい」と「お金」の問題を位置づけています。

「親なき後」に不安を感じているみなさんには、ぜひこの四つの視点から知的障害のある本人のこれからを考えてほしいと思います。解決策は、すぐには見つからないかもしれませんが、それでもきつと、みなさんが本人や支援者、専門家などと一緒に考え、悩み、試行錯誤してきたことは、本人の生活を支える基礎になるはずです。最終的にどんな生活を送るか決めるのは、知的障害のある本人です。

「親なき後」について、一人で抱えこまず、「こうあるべき」と決めつけることもせず、知的障害のある本人たちの笑顔をこれからもつないでいくために、できることから準備を進めてほしいと考えています。

はじめに……………1

第1章

老いるということ

高齢期を迎えた人たちの暮らし

- 井上孝治さん(大阪府・68歳)……………4
- 島崎和子さん(北海道・66歳)……………8
- 永田孝さん(神奈川県・75歳)……………12
- 知的障害のある人の「老いる」を考える……………16

第2章

相談について

コーデイネーター役を見つけよう

- 1 親なき後のコーデイネーター役は……………22
- 2 何かあったときに相談できる人は誰?……………28
- 3 支援チームが集まり
地域の協力的体制をつくる……………32

第3章

医療について

障害特性や高齢による健康リスクとは

- 1 高齢化と健康……………38
 - 2 福祉と医療の積極的な活用……………44
 - 3 いまからできる健康リスクへの備え……………51
- 全国各地で活用される「受診サポート手帳」……………54

第4章

住まいについて

高齢期を迎えた人たちにとつての暮らしの場とは

- 1 親の「安心」ではなく本人の希望に沿って……………56
 - 2 状況に合わせて住まいと支援を選ぶ……………61
 - 3 いまからできる備え……………64
- 親元からの離れ方は人それぞれ……………70

第5章

お金について

親なき後の生活資金をどうする?

- 1 生活とお金について考える……………72
- 2 使える制度を知る……………76
- 3 まず何からはじめる?……………90

第6章

備えについて

私たちがいまできること

- 竜田香子さん(千葉県・75歳)……………94
 - 上野敬子さん(神奈川県・81歳)……………97
 - 岩井功次さん(広島県・76歳)……………100
- 気になる高齢期の福祉サービス……………102
- おわりに……………110